

農業後継者の定着条件

—結婚の経緯—

安住 百合子・河野 あけね・川部 賢三郎

(宮城県農業センター)

Conditions of Inheritor to Fix

—Detail of marriage—

Yuriko AZUMI, Akene KOUNO and Kenzaburou KAWABE.

(Miyagi Prefectural Agricultural Research Center)

1 はじめに

地域農業の発展を図るためには農業後継者確保が不可欠である。しかし、後継者の定着は進まず、後継者の配偶者確保問題も一層深刻さを増している。宮城県内でも、農業委員会等が中心となり、結婚相談委員を設置するなど問題解決に向け活動を展開しているところである。農業後継者が、地域農業の担い手として定着するには、配偶者確保がその大きな要因の一つと考えられる。

そこで、現在就農し、定着しつつある後継者について結婚の形態との関連で検討を行った。その結果、結婚の経緯により、経営での取り組みの様子、組織活動への参加状況などに違いがみられた。

2 調査対象者の概要

昭和62年11月、農業後継者育成を目的にしている機関の20代の卒業生497名を対象にアンケート調査を行った。その結果(回答者211名、回収率42.5%)農業従事者は113名、農外従事者及びその他は98名であった。

農外従事者のほとんどはフルタイムとして働いており、その勤務先も農協、農機具会社など農業に関わりあるところが多くみられ、自宅からの通勤が約9割を占めている。したがって休日等は何らかの形で農業に携わっているものと思われる。その他はサラリーマンの主婦等となっている。

表2 卒業生の結婚状況

	総数	未婚者	既 婚 者				経緯別結婚年齢(歳)			
			小計	見合い	恋愛	その他	平均	見合い	恋愛	その他
農業従事者	113 (100%)	58人 (51.3)	55 (48.7)	23 (20.4)	28 (24.8)	4 (3.5)	23.9	23.7	24.0	24.8
他産業従事者	98 (100%)	70 (71.4)	28 (28.6)	9 (9.2)	18 (18.4)	1 (1.0)	25.1	25.9	24.7	25.0
合計	211 (100%)	128 (60.7)	83 (39.3)	32 (15.2)	46 (21.8)	5 (2.3)	24.3	24.3	24.3	24.8

3 農業従事者の結婚経緯別実態

(1) 就業理由について

調査時点での対象者の平均年齢は26.2歳で結婚後2～3

就業経過については表1のとおりで、様々な経過を経ながら現在に至っている。

表1 卒業生の就業状況と経過(回答者211名)

卒業後就農し、現在も農業に従事	45.0%
卒業後就職したが、現在は農業に従事	4.7%
卒業後先進地農家等にて研修を受け、就農した	0.5%
卒業後就農したが、今は農外に従事している	14.7%
卒業後就職し、現在も勤めている	28.9%
その他	6.2%

農業従事者と農外従事者の経営規模については、2～3ha規模を境に面積が増えるに従い農業従事者は増え、農外従事者は減る傾向にある。就業理由を見ると農業従事者は「長男・長女だから」、農外従事者では「経営規模が小さいから」がそれぞれ一番多くみられた。

組織への参加状況を見ると、農業従事者は2.5集団、農外従事者は1.7集団と農業従事者が農外従事者に比較して参加集団数が多かった。

卒業生の結婚状況は表2のとおりで、農業従事者の55人、農外従事者の28人の計83人が結婚しており、全体の4割弱となっている。結婚の経緯別では、恋愛結婚が約2割、平均結婚年齢も24.5歳と経緯別での差はみられない。農業従事者と農外従事者との違いは結婚年齢で、農業従事者の方が23.9歳と農外従事者より1.2歳若くして結婚している。

年経過しており、おおむね経営的にも中心となりつつある。

経緯別には多少異なった就業形態となっており、恋愛グループ、その他グループでは「長男・長女だから」が最も多く、見合いグループでは「農業が好きだから」が多くなっ

ている。しかし、女子の卒業生の場合は「農家に嫁いだ」を機会に就農しており、見合いグループに多く見られる。

(2) 経営の様子

経営耕地規模別には表3のとおりで、経緯別では3ha以上農家層が見合いグループ、その他グループでは各々7割以上を占めているが、恋愛グループでは6割弱と他グループに比較して少なくなっている。

就農してからの経営内容の変化を見ると、多少の差がみられるが、恋愛グループに新部門導入が多くなっている。

表3 結婚の経緯別経営規模と経営内容の変化

(単位:人, %)

		経営規模						経営内容			
		50~100a	100~200	200~300	300~500	500~	無記入	新部門導入	部門拡大	変化なし	無記入
恋愛	28		5 (17.9)	7 (25.0)	9 (32.1)	6 (21.4)	1 (3.6)	12 (42.9)	7 (25.0)	9 (32.1)	
見合い	23	1 (4.3)	2 (8.6)	4 (17.4)	12 (52.2)	4 (17.4)		9 (39.1)	3 (13.0)	9 (39.1)	2 (8.7)
その他	4				2 (50.0)	2 (50.0)			3 (75.0)	1 (25.0)	
計	55	1 (1.8)	7 (12.7)	11 (20.0)	23 (41.8)	12 (21.8)	1 (1.8)	21 (38.2)	13 (23.6)	19 (34.5)	2 (3.6)

このことは経営内での役割分担状況にも現れており、経緯別では恋愛グループの半数の人が役割分担をしており、恋愛グループが意欲的に経営に取り組んでいる様子が伺える。

(3) 組織の参加状況について

組織参加状況は図1のとおりである。経緯別では恋愛グループが3.5集団と最も多く、積極的にグループ活動に参加している様子が伺え、他グループとのあいだに違いがみられる。

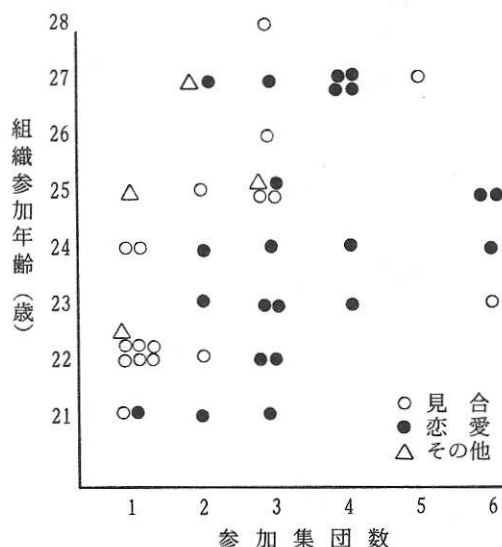


図1 結婚経緯別の組織参加状況

このことは、昨年度行った15人の事例調査の中でも見られた。対象者の8割が恋愛結婚であったが、組織の参加集団数も3.8集団と多くの集団に参加し、経営的にも充実し

更に3ha以下層の農家を見ると、農家割合は、恋愛グループが最も多く4割強を占めており、見合いグループでは3割、その他グループでは見られない。そこで、経営内容の変化についてみると、新部門導入・部門拡大をしている農家は、恋愛グループで6割の農家取り組んでおり、見合いグループは3割弱と恋愛グループにおいて割合が高くなっている。内容的にも施設園芸など集約的な農業を積極的に取り入れ、経営基盤の確立を図っており、限られた規模の中で創意工夫をしながら農業に取り組んでいる。

ている中で、多くの組織活動へ参加し仲間とのつながりを持つことを強く訴えている。特に、新部門導入に当っては関係機関の指導はあるものの、仲間と情報交換しながら自分を磨き、磨かれる中で経営充実へと結びついており、良き相談相手であり、しかも、ある時は良きライバルとしての仲間の位置づけがされている。更に参加組織の内容を見ると、農業に関わる組織だけでなくスポーツ等様々で、メンバー構成も組織によっては集落内、町村段階、他町村段階と内容、構成とも広域的な範囲での人のつながりがみられる。

4 ま と め

農業従事者を結婚経緯別にみると、恋愛グループは就農理由としては、「長男・長女だから」と世襲的要素が強い中で就農しているものの、経営内で役割分担し、新しい部門の導入あるいは部門拡大を積極的に取り入れながら経営の充実をはかっている例が多くみられた。

更に地域の様々な組織活動にも積極的に参加するなど意欲的な様子がうかがえ、見合い、その他グループの農業従事者とのあいだに違いがみられた。

後継者定着のため、結婚は一つの要因と考えられるが、見合いでなく、恋愛結婚できるなら、より喜ばしいことである。しかし、恋愛結婚は見合い結婚と比べ、個人的力量、努力が多く必要とされる。ところが恋愛結婚グループは他グループより組織参加が多くみられ、多くの組織活動に参加することは、人的交流の場となり、結果的には結婚のチャンスが多くなることが当然予測される。しかも、経営意欲が強かったということは、組織参加による人的交流、技術向上の結果とみられる。したがって、組織参加は、農業後継者を育てる上で有効な方法であろうと考えられる。